

感音難聴のドクター調査 調査概要

■ 調査趣旨

- 感音難聴患者の治療実態や治療方針、新薬候補への期待度等を明らかにするために、直近1年間に慢性・難治例の感音難聴患者を30人以上診療している耳鼻咽喉科専門医30名にインタビュー調査を実施した。
- 当調査では、感音難聴患者の診療プロフィール、突発性難聴の急性時・慢性時における治療実態、原因難聴別の治療方針、各治療の評価と問題点、新薬候補の期待度や患者像等を分析している。

◆ 調査方法

- 電話インタビュー調査

◆ 調査対象

- 直近1年間に慢性・難治例の感音難聴患者を30人以上診療している耳鼻咽喉科専門医（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会）HPドクター30名

◆ 調査期間

- 2021年11月～2022年1月

◆ 発刊日

- 2022年2月10日

【調査分析】 TPCマーケティングリサーチ株式会社

リサーチ・ソリューション事業部 ソリューショングループ

E-Mail: t.mizukami@tpc-osaka.com

<http://www.tpc-osaka.com>

◆ 調査ポイント

- ✓ 診療患者プロフィール
- ✓ 突発性難聴患者の治療内容
- ✓ 原因難聴別治療方針（突発性難聴、加齢性難聴、先天性難聴、騒音性難聴）
- ✓ 各治療の評価と問題点
- ✓ 新薬候補の期待度、対象患者割合および患者像

報告書体裁:

レポート(PPT/PDF)、rawdata(Excel)

頒価:968,000円(税別:880,000円)

目次1

ドクタープロフィール

分析編

1. 診療患者プロフィール	7
2. 突発性難聴患者の重症度と経過	8
3. 突発性難聴患者の治療内容①(急性時)	9
4. 突発性難聴患者の治療内容②(慢性時)	10
5. 加齢性難聴患者の重症度と受診頻度	11
6. 原因難聴別治療方針	12
7. 各治療の評価と問題点	14
8. 新薬候補の期待度と対象患者割合	17

集計編

1. 直近1年間に診療した難聴患者数	19
2. 直近1年間に診療した慢性・難治例の感音難聴患者数	20
3. 原因難聴別患者割合	21
4-1. 突発性難聴の重症度別患者割合	22
4-2. 突発性難聴患者の平均受診間隔	23
4-3. 急性時の突発性難聴患者の経過	24
4-4. 急性時の突発性難聴患者の第1選択治療	25
4-5. 急性時の突発性難聴患者の第2選択治療	35
4-6. 慢性化した突発性難聴患者の治療内容	43
4-7. 慢性化した突発性難聴患者の治療期間と中止・中断基準	50
5-1. 加齢性難聴の重症度別患者割合	52
5-2. 加齢性難聴患者の平均受診間隔	53
6. 慢性・難治例の感音難聴患者の治療方針	54
7. 補聴器・人工内耳の使用患者割合	72

目次2

8-1. 各治療の満足度	82
8-2. 各治療の問題点	94
9-1. 新薬候補の期待度	104
9-2. 新薬の使用対象となる患者割合	110
9-3. 「FX322」の望ましい投与頻度と使用したい患者割合	120

調査票

調査票

感音難聴のドクター調査 調査票

Q1 先生が直近1年間に診療された難聴患者さん(急性も含む)は何人いらっしゃいますか。また、感音難聴、伝音難聴、混合性難聴の患者さんのおおよその内訳を教えてください。

A1	直近1年間に診療した難聴患者数	うち感音難聴患者数	うち伝音難聴患者数	うち混合性難聴患者数
	人	人(%)	人(%)	人(%)

Q2 (直近1年間に診療された感音難聴患者さんを100%)先生が直近1年間に診療された感音難聴患者さんについて、慢性または難治例の患者さんはどれくらいいらっしゃいますか。

A2	慢性・難治例
	%

◆以降の設問については、特に記載がない場合は、先生が直近1年間に診療された慢性・難治例の感音難聴患者さんについて、ご回答をお願い致します。

Q3 (直近1年間に診療された慢性・難治例の感音難聴患者さんを100%)先生が直近1年間に診療された慢性・難治例の感音難聴患者さんについて、感音難聴の原因となった難聴別の割合を教えてください(計100%)。 ※その他の難聴は主なものをつまめて具体的に教えてください。

A3	突発性難聴	加齢性難聴	先天性難聴	騒音性難聴	その他①	その他②
	%	%	%	%	() %	() %

Q4-1 (直近1年間に診療された慢性・難治例の突発性難聴患者さんを100%)先生が直近1年間に診療された慢性・難治例の突発性難聴患者さんについて、重症度別割合を教えてください(計100%)。

A4-1	Grade1 (40dB未満)	Grade2 (40~60dB未満)	Grade3 (60~90dB未満)	Grade4 (90dB以上)	不明
	%	%	%	%	%

Q4-2 先生は担当されている突発性難聴患者さんについて、平均してどれくらいの受診間隔を指示されていますか。 ①急性時、②慢性時それぞれについて、教えてください。

A4-2	①	週間/日に1回	又は	
	②	週間/日に1回	又は	

Q4-3 先生が直近1年間に初めて診療された急性時の突発性難聴患者さんを100%とした場合、治療効果が十分に現れず、慢性化した(難聴が残った)患者さん、難聴以外の後遺症が残った患者さんは、それぞれどれくらいの割合いらっしゃいますか。 ※この設問は急性例(時)の患者さんのことをお答えください。

A4-3	慢性化した患者割合	後遺症が残った患者割合
	%	%

Q4-4 先生が直近1年間に初めて診療された急性時の突発性難聴患者さんを100%とした場合、最初に行われた(第1選択)治療とその割合を教えてください(併用治療も含む)(計100%)。また、どのような患者さんが対象となるかを教えてください。 ※補聴器や人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)は除きます。 ※この設問は急性例(時)の患者さんについて、お答えください。 【主な治療:飲み薬(ステロイド、プロスタグランジンE1製剤、その他飲み薬)、点滴静注(ステロイド)、鼓室内注入(ステロイド)、耳状神経節ブロック、高気圧酸素療法(HBOT)】

A4-4	治療(第1選択)	患者割合	対象患者
	①		
	②		
	③		

Q4-5 では、前問(Q4-4)の治療で効果不十分な場合、急性時に次に実施された(第2選択)治療は何ですか。それぞれ教えてください。 ※補聴器や人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)は除きます。 ※この設問は急性例(時)の患者さんについて、お答えください。 【主な治療:飲み薬(ステロイド、プロスタグランジンE1製剤、その他飲み薬)、点滴静注(ステロイド)、鼓室内注入(ステロイド)、耳状神経節ブロック、高気圧酸素療法(HBOT)】

A4-5	治療(第2選択)	
	A4-4の①	
	A4-4の②	
	A4-4の③	

Q4-6 先生が直近1年間に初めて診療された急性時の突発性難聴患者さんのうち、慢性化した(難聴が残った)患者さんについてお伺いします。慢性化した患者さんを100%とした場合、行う治療(経過観察も含む)とその割合を教えてください(計100%)。また、その対象患者を教えてください。 ※補聴器や人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)は除きます。 ※特に治療内容がない場合は、おおよその治療方針を教えてください。

A4-6	治療	患者割合	対象患者
	①	%	
	②	%	
	③	%	

Q4-7 また、先生は慢性化した突発性難聴患者さんに対して、①何らかの治療(経過観察を除く)を難聴症状が最初に出てから平均して何か月まで実施されますか、また②中止・中断する基準があれば教えてください。 ※補聴器や人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)は除きます。

A4-7	①	難聴症状が最初に出てから【 】か月まで何らかの治療を実施する
	②	

Q5-1 (直近1年間に診療された加齢性難聴患者さんを100%)先生が直近1年間に診療された加齢性難聴患者さんについて、お伺いします。加齢性難聴患者さんの重症度別割合を教えてください。

A5-1	正常 (25dB未満)	軽度難聴 (25~40dB未満)	中等度難聴 (40~70dB未満)	高度難聴 (70~90dB未満)	重度難聴 (90dB以上)	不明
	%	%	%	%	%	%

Q5-2 先生は担当されている加齢性難聴患者さんについて、平均してどれくらいの受診間隔を指示されていますか。

A5-2 週間/日に1回 又は

Q6 先生が担当されている慢性・難治例の患者さん(①突発性難聴②加齢性難聴③先天性難聴④騒音性難聴⑤「その他①」⑥「その他②」)について、それぞれの難聴で行っている主な治療方針(内容)を教えてください(経過観察や補聴器、人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)も含む)。

A6 ①
②
③
④
⑤
⑥

Q7 (直近1年間に診察されたそれぞれの慢性・難治例の難聴患者さんを100%)先生が直近1年間に診察された、慢性・難治例の感音難聴患者さんのうち、感音難聴の原因となった難聴別(①突発性難聴②加齢性難聴③先天性難聴④騒音性難聴⑤「その他①」⑥「その他②」)に、補聴器または人工内耳を使用されている患者さんのおおよその割合を教えてください。

A6	補聴器		人工内耳	
	①	%	%	%
②	%	%	%	%
③	%	%	%	%
④	%	%	%	%
⑤	%	%	%	%
⑥	%	%	%	%

Q8-1 先生が急性時の感音難聴患者さんに行っている治療として、その効果についてそれぞれどのように評価されていますか。また、慢性・難治の感音難聴患者さんに下記のような治療を行っている場合、その効果についての評価を教えてください。
※補聴器や人工内耳など(脳幹インプラントや外科手術)は除きます。
(1. 大変満足している/2. ある程度満足している/3. どちらともいえない/4. あまり満足していない/5. 全く満足していない/6. 使用していない・使用経験が少ない)

A8	治療	満足度		治療	満足度	
		急性時	慢性・難治時		急性時	慢性・難治時
	ステロイド(飲み薬)			星状神経節ブロック		
	ステロイド(点滴静注)			高気圧酸素療法(HBOT)		
	ステロイド(鼓室内注入)			その他()		
	プロスタグランジンE1製剤					

Q8-2 では、感音難聴で行われる各治療について、それぞれ問題点があれば教えてください。

A8-2	治療	問題点
	ステロイド(飲み薬)	
	ステロイド(点滴静注)	
	ステロイド(鼓室内注入)	
	プロスタグランジンE1製剤	
	星状神経節ブロック	
	高気圧酸素療法(HBOT)	
	その他(Q8-1回答)	

Q9-1 現在、慢性・難治化した感音難聴に対しては、有効な治療法はないとされています。一方で、感音難聴の根本的原因となる内耳の有毛細胞を再生させ(内耳に存在する前駆細胞を有毛細胞へ分化させる)、聴力の回復を促す治療薬(再生医療)の臨床試験が、海外・日本国内でも進んでいるものと思われれます。さらに、これ以外にも治療薬の開発は進んでいます。これら治療薬について、先生の期待度とその理由を教えてください。
(1. 大変期待している/2. ある程度期待している/3. どちらともいえない/4. あまり期待していない/5. 全く期待していない/6. よく知らないで、判断できない)

開発中の薬剤	製品名	作用/種類	開発企業
	a)	FX322	有毛細胞の前駆細胞活性化剤 (GSK-3阻害薬とHDAC阻害薬の併用)
b)	SENS401	5HT3拮抗薬	Sensorion

A9-1	新薬候補	期待度	理由
	FX322		
	SENS401		

Q9-2 (直近1年間に診察された慢性・難治例の感音難聴患者さんを100%)「よく知らないで、判断できない」と回答した薬剤を除く、前問で回答された治療薬(再生医療)をどのような患者さんに使用したいと思いますか、使用対象となる患者像を教えてください。また、直近1年間に診察された慢性・難治例の感音難聴患者さんのうち、それぞれどれくらいの割合の患者さんが使用対象になりますか。

A9-2	新薬候補	使用対象となる患者像	該当する患者割合
	FX322		%
	SENS401		%

Q9-3 「よく知らないで、判断できない」と回答したドクター以外に)また、鼓室内投与と刺剤とする「FX322」について、どの投与頻度が望ましい(使用したい)と思いますか。望ましい(使用したい)と思う投与頻度をすべてお選びいただき、それぞれ主にどのような患者さんに使用されたいか(使用したい患者特性)も教えてください。
(1. 1週間)に2~3回/2. 1週間に1回/3. 2週間に1回/4. 1か月に1回/5. その他/6. どの投与頻度でも望ましい(使用したい)と思われる)

A9-3	望ましい投与頻度	使用したい患者特性